



G06

下田歌子と経済

【研究・事業の概要】

本研究は、下田歌子の著作・行動について「経済」の観点から総合的な検討を行うものである。具体的には関連資料の収集、読み解き、関連施設の見学、常磐祭での活動である。

◎下田歌子と金融

下田と金融関係の資料収集を行う
「貯蓄」：世界の貯金箱博物館（尼崎）
「貯蓄管理所」、郵政博物館（墨田区）
「再建」：貨幣博物館（日本橋）など

◎下田歌子と経済：

下田歌子が賄った大学校舎の土地購入に関する費用に関する資料収集を行う（御料地払下げに関して）
宮内公文書館など

◎下田歌子と洋行：

洋行関連の資料収集を行うとともに、渡航費用や現地での経費等に関する19世紀末の状況を調査。
また、洋行時にシーリングスタンプを押した郵便物のやり取りをして居ることから、常磐祭・日野キャンパスで「試してみよう、シーリングスタンプ」（仮称）のブースを出し、実際の作業体験の場を設けることを予定。

◎下田歌子と経済

渋谷校地は、大正から昭和にかけて宮内省からの払下げにより成立している。この御料地払下げに関しては、下田歌子が皇室と関係が深かったことから、「下田歌子だけが払下げを受けた」「無償で払下げを受けた」「手続等が省略され、無償に近い金額で払い下げを受けた」といった噂話が流布していた。今回宮内公文書館で資料調査を行った結果、払下げは下田歌子だけでなく東京農業大学や一般人を含め何度も行われており、渋谷校地の払下げに関しては、正規の手続を経て、当時の正規の金額で払い下げを受けたことが確認できた。

本件に関しては、奥島客員研究員が「下田歌子記念女性総合研究所年報2024」で報告を予定している。

◎下田歌子と洋行（欧州教育視察）

下田歌子が欧州教育視察のため渡欧した際には、多額の費用が宮内省より準備され、当初一年の予定が二年に延長されている。渡航及び滞在費が認可されたのは、乗船する予定のメルボルン号出港の2週間ほど前であった。下田歌子はこの費用をどうやって2週間で欧州で使用できるようにしたのか？銀行はどこだったのか？送金したとしたら方法は？為替は？

当初一年の予定が二年に延長された時、ほぼ当初と同じ額が支給されたが、これはどうやって送金されたのか？送金方法は？当時の通信(郵便・電信)の状況は(送金完了までの時間)？

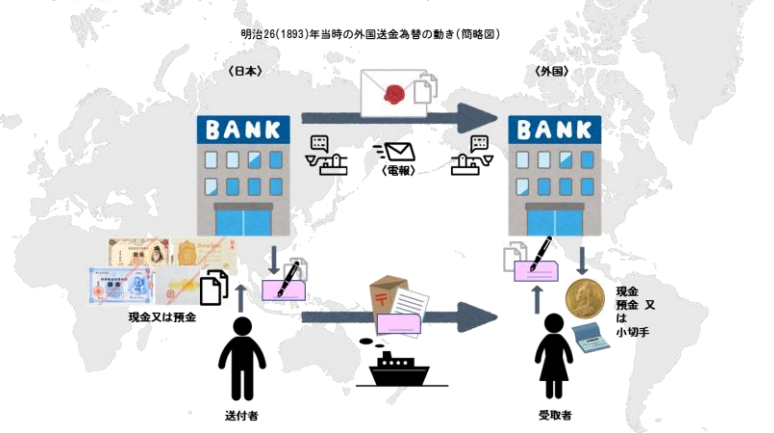
これまでは、人や場所に焦点が当てられていた教育視察であったが、移動方法や費用に焦点をあてたアプローチを試みることで、新たな視点から下田歌子の活動を読み解いてみたい。



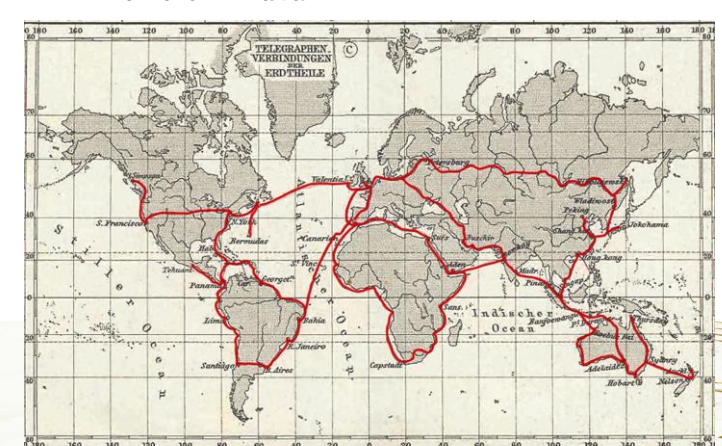
現在(令和5(2023)年)の實踐女子学園渋谷校地の様子

- ◎大正11(1922)年 第1回払下げ
- ◎昭和 3(1928)年 第2回払下げ
- ◎昭和 6(1931)年 第3回払下げ

◎海外送金方法（外国送金為替のイメージ）



◎1891年当時の電信網



※この図の赤線は、原図に記載されていた線を分かりやすくするため引き直しています。

◎高橋桂子・久保貴子・奥島尚樹